

## 為替週間展望 = ドル円は 109円台を中心に上値の重い展開か

[ 1月27日からの1週間の展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		1月20日～1月24日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	110.06	110.22(20)	109.27(23)	109.52	-0.62
ユーロ・ドル	1.1094	1.1118(21)	1.1036(23)	1.1045	-0.0047

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,827.18	-214.08	日本10年債利回り	-0.023	-0.026
ダウ平均株価	29,160.09	-137.55	米10年債利回り	1.733	-0.089

=====

<来週の主要経済統計等>

- 27日 独1月ifo景況感指数  
米12月新築住宅販売件数
- 28日 米12月耐久財受注  
米11月S&Pケースシーラー住宅価格指数  
米1月消費者信頼感指数
- 29日 豪第4四半期消費者物価指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
米連邦公開市場委員会 (FOMC、28～29日) 政策金利発表  
パウエルFRB議長記者会見
- 30日 NZ12月貿易収支  
スイス1月KOF先行指数  
独1月雇用統計  
ユーロ圏12月雇用統計  
英中銀 (BOE) 政策金利、英中銀四半期インフレ報告  
独1月消費者物価指数  
米第4四半期国内総生産 (GDP) 速報値  
米新規失業保険申請件数
- 31日 日本12月雇用統計、日本12月有効求人倍率  
日本12月小売業販売額、日本12月鉱工業生産指数速報値  
豪第4四半期生産者物価指数  
中国1月製造業購買担当景気指数  
スイス12月小売売上高  
ユーロ圏第4四半期域内総生産 (GDP) 速報値  
ユーロ圏1月消費者物価指数  
米12月個人所得・支出、米第4四半期雇用コスト指数  
カナダ12月鉱工業製品価格  
米1月シカゴ購買部協会景気指数  
米1月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】米10年物国債利回りが1.8%台を中心とするもみ合いとなって上昇しにくく、ドル円は底堅い動きを見せつつも、大きく上昇しにくい展開とした。こうした中、ドル円は109～110円台で堅調な推移を見せるとした。

【新型コロナウイルスへの警戒感広がる】

中国の武漢で発生した新型コロナウイルスの感染拡大懸念が世界的な株安や円高につ

ながっている。

中国政府が武漢市に発着する航空機、長距離バス、電車、市内の公共交通機関の停止方針を示すなど、感染拡大阻止に向けて積極的な対応に出ていることは一定の評価をされている。ただ、ニュースが報道されるたびに感染者数は増加している。今後、世界的にどのような広がりを見せるかは不透明であり、市場に対して悪影響を及ぼすような状況が継続する可能性もある。なお、23日に世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルスに関して、緊急事態宣言を見送った。ただ、今後の状況次第では予断を許さない。

23日には日経平均が200円超の下落となり、大きく売られる展開となった。それまでドル円は下げても109.70円近辺ではサポートされていたものの、円高が進行した。この日のNY市場では一時109円台前半まで円高に振れた。米10年債利回りはリスク回避の動きから、1.73%前後まで低下しており、ドル円には重石となっている。

21日にトランプ米大統領は世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）での演説で、米国経済の堅調さを強調したものの、選挙戦へ向けた有権者へのアピールが中心となり、市場への影響は限定的となった。また、20～21日の日銀金融政策決定会合では、金融政策に変更はなかった。日銀は2020年度の実質GDP見通しは0.9%として、前回0.7%から上方修正したものの、反応は限定的だった。

1月の最終週は28～29日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催される。CME FEDウォッチでは、金利据え置き確率は24日時点で87%前後となっている。今回のFOMCでは政策金利は据え置きの見通し。声明やパウエル議長の記者会見で、今後の景気見通しなどについて、どのような判断を示すかが注目される。また、30日には米第4四半期国内総生産（GDP）速報値の発表がある。昨年3回の利下げが米国景気にどう影響しているかも含めて注目される。

新型コロナウイルスの感染拡大懸念が市場の最大の注目材料となっている。中国は24日より春節（旧正月）の大型連休に入っており、感染拡大がどこまで広がるのか不透明な状況が続くとみられる。こうした中、関連する報道に振り回されながらもドル円は109円台を中心に上値の重い展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、108.75～110.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、27日に米12月新築住宅販売件数、28日に米12月耐久財受注、米11月S&Pケースシラー住宅価格指数、米1月消費者信頼感指数、29日に米MBA住宅ローン申請件数、米連邦公開市場委員会（FOMC、28～29日）政策金利発表、パウエルFRB議長記者会見、30日に米第4四半期国内総生産（GDP）速報値、米新規失業保険申請件数、31日に日本12月雇用統計、日本12月有効求人倍率、日本12月小売業販売額、日本12月鉱工業生産指数速報値、米12月個人所得・支出、米第4四半期雇用コスト指数、米1月シカゴ購買部協会景気指数、米1月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

#### 【ユーロドルは下落基調で推移か】

ユーロドルは1.1100ドルを割り込んだ後は軟調な流れが継続している。21日には1月の独ZEW景況感指数の上振れなどを受けて1.1110台まで上値を伸ばした。ただ、その流れは続かず1.1100ドルを割り込んでいる。リスク回避の円買いの動きからユーロ円が下落基調で推移していることもあり、ユーロドルは上値を抑えられやすくなっている。

23日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、金融政策は大方の予想通り、据え置きとなった。現在の金融緩和策は継続される。注目されたラガルド総裁の記者会見では、景気動向に関して「下振れリスクが大きい」との認識を示したことで、ユーロ売りの動きにつながった。

ユーロドルは23日に一時1.1036近辺まで下落した。ECBによる緩和策は継続されることで、下落基調で推移するとみられる。戻しても1.1100ドル近辺では

上値を抑えられやすく、軟調な推移が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、  
1. 1000～1. 1110ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、27日に独1月IFO景況感指数、29日に豪第4四半期消費者物価指数、30日にNZ12月貿易収支、スイス1月KOF先行指数、独1月雇用統計、ユーロ圏12月雇用統計、英中銀（BOE）政策金利、英中銀四半期インフレ報告、独1月消費者物価指数、31日に豪第4四半期生産者物価指数、中国1月製造業購買担当景気指数、スイス12月小売売上高、ユーロ圏第4四半期域内総生産（GDP）速報値、ユーロ圏1月消費者物価指数、カナダ12月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。